

あなたは知っていますか？

～南海トラフ地震被害想定とこれからの防災～

「東海沖から四国沖にかけての南海トラフ沿いで巨大地震が発生した場合、それが冬の深夜に最大級の地震と大津波が起こったと仮定したケースでは、徳島県が2005年に公表した想定数『県内死者4,300人』の7.2倍にあたる31,000人と想定。」と記事は伝えています。また、このときの震度は徳島市では7、最大津波高は7メートルとされています。

これは、科学的に考えられる最大級の地震と津波の被害を想定したものであり、発生確率は極めて低いとされていますが、私たちが備えをして被害を最小限にするために公表されたものです。阪神・淡路大震災や東日本大震災での尊い犠牲から得た教訓を、ぜひとも生かさなければなりません。日頃からの備えや危機意識をもった訓練をしていくことで、被害は半減、それ以下にもできると専門家も言っています。ですから、学校の避難訓練は今までもよりさらに真剣に参加し、家庭では地震の揺れに対応した準備や、災害時の緊急避難場所の確認など、何度も話し合いをしておきましょう。